

東京都地方独立行政法人評価委員会 平成20年度第5回試験研究分科会
議事概要

1. 日時：平成21年3月27日（金）14時00分から15時30分まで
2. 場所：東京都庁第一本庁舎 33階南側 特別会議室S1
3. 出席者：板生委員、井上委員、泉澤委員、鞠谷委員、根本委員
4. 議題：1 審議事項 産業技術研究センターの業務実績評価方針及び評価方法について（案）
2 報告事項 産業技術研究センターの平成21年度年度計画（案）について
3 その他

5. 議事概要：

(1) 産業技術研究センターの業務実績評価方針及び評価方法について（案）

資料1・2及び委員手持ち資料1により、事務局から各事業年度の業務実績評価（年度評価）の方針及び方法について説明。

【委員意見】

- 評価の方法について、年度評価、事前評価及び中期目標期間評価の様々な評価を行うことになっているが、中期目標期間の5年間という長期スパンでどのように技術研究またはサービスが提供されるべきなのかということを中心に、議論しておくことが必要である。
- 事前評価のベースにする年度評価が、毎年同じような計画の立て方の中で、評価を行ってきているので、3年分の評価を総括して、次期中期目標に役立つ評価を行い、目標をステップアップしていくことが必要である。

審議の結果、本改正案を、試験研究分科会による決定案とすることとした。

(2) 報告事項 産業技術研究センターの平成21年度年度計画（案）について

資料3・4により、事務局から平成21年度年度計画（案）及び再整備の状況について説明。

【質疑応答・委員意見】 ※ゴシックが委員意見

○ 依頼試験のトラブルについて、今後の再発防止も含め、全体的にこういったリスクに関するきちんとした評価を常に行ってリスクを低減していくことは、安全対策の基本であり、こうした視点を取り入れていく必要があるのではないか。

⇒ リスクマネジメントの体制も作ってはいるが、今回のトラブルを機に、まずは依頼試験の対応についてきちんと内部で評価した。機器利用についてもお客様が機器を正しい状態で使っているかの定期的な校正、点検等を行っている。全体として再度調査を掛け、細かいレベルまできちんとしたものを現在作っているところであり、あと1・2年でほぼ完全なものができる。

○ 採用に関して平成20年度の29名の採用のうち、事務職が6名ということであるが、研究職が不足している中で、事務職の職員が更に必要な事情とはどういうことか。

⇒ 事務職については、設立当初からの計画に基づき、都の派遣に変えて段階的に法人の固有職員で事務職を増やしていくことになっている。また、多摩及び臨海の新拠点への移転に伴う事務作業も膨大となるため、それに対応するために事務職員を強化した。

○ 事務職をアウトソーシングして、研究職を増やすことでよりサービス向上ができれば理想であるが、適正な規模を常に考えて進めていくことを期待する。

○ 設備投資を行うことは重要であり、どの設備を更新する必要があるかはチェックし、出しておく必要がある。

⇒ 移転を機に、どの設備を更新するかを今確認しているところである。次回以降に報告させていただく。

○ 産技研の組織に監査関係の部署はあるのか。

⇒ 監事はいるが、組織の中に監査部署は置いていない。

○ 人員の関係で、すぐには難しいと思うが、技術者だけでは、外部の視点が欠けたりするので、もう一度、内部チェック体制を検討しておく必要がある。

○ 製品化支援を行う際の、特許等の取り決めについては、既に具体的な方針があるのか。

⇒ ケースバイケースで行っていくことになるが、支援する過程で産技研の特許を持ち込むといったような場合は、当然その対価については、ルールにのっとって行っていく。

○ ロードマップの作成はどのようなやり方をしてつくられたのか。

⇒ 最初に各部門で検討をし、粗いものができた段階で、次に、所全体の事業と技術分野ロードマップを定め、それをベースにもう一回各部門のロードマップを見直しても

らうという手順で、約半年間かけて作成した。なお、作成にあたっては、東京都の産業を中心に学会や経済産業省のロードマップなども参考にした。

○ 人材の採用状況というのは、買い手市場になりつつあるのかどうか。また、任期付で採用した職員の定着率はどうなっているのか。

⇒ 大変好転している。平成22年の新卒採用に七十数名の応募があった。良い人材を選考する作業は大変になっている。任期付職員は、ほとんどが正規職員になっている。

○ 人材が不足するという問題について、どういうニーズに対応する人材が足りないのかということがわかる資料が必要である。

⇒ もう少し精査し、改めて報告したい。

○ ロードマップには新規分野が相当掲載されているが、この新規分野を立ち上げて、リードする役割の研究者をどうするのか。

⇒ 新しく始める分野については外部から引っ張ってくる、あるいは内部から転換していくという方法で進めていく。

○ 研究の分布でいくと、ハードウェアの比重がかなり高いが、今後は、ロボットとかの比重が増え、通信分野も含めると、ソフトウェアとかそういう分野の要望がどんどんふえるということも考えられる。その辺のサーベイを継続して行う必要がある。

⇒ メカトロニクスもそうだが、ソフトウェア関係は、例えば情報電子という半導体応用というところを入れようと思っている。半導体のほとんどの機能をソフトウェアで設計するので、ソフトウェア関係を強くしていくためにも、人材も強化する必要がある。

(以上)